

平成18年度 (社)外国映画輸入配給協会 事業報告

平成18年度定時総会

平成19年度通常総会は6月8日に開催された。総会において平成18年度事業報告書、収支計算書ならびに平成19年度事業計画、収支予算承認、理事選任に関する件が議され、承認された。

会長：迫本淳一 副会長：平沼久典 常務理事：椎名 保 理事：林 瑞峰、杉山 章、依田 巽、豊島雅郎、春名 慶、角川歴彦、大藏満彦、長瀬文男、廣瀬敏雄、升本喜郎、黒田陽子

監事：中 雅俊、岩崎敏久

参事：大西幸記、気賀純夫、柴田 駿、植村伴次郎、長谷川 憲、吉村 毅、堀江昭雄、香月淑晴、佐藤直樹、篠原弘子、中野理恵、松下順一、佐藤みを、定井勇二、酒匂暢彦、岩倉 達、唯敷和彦、沖田 敦、小田原雅文、花田康隆、坂上直行

平成19年度(平成19年4月1日～同20年3月31日)事業計画を以下の通り設定。

社団法人外国映画輸入配給協会が、平成19年4月1日より同20年3月31日迄の間に行う予定の主要事業は、下記の通りで、社団法人映画産業団体連合会傘下の我が国唯一の邦人系外国映画輸入配給業者の団体として、運営の基盤を一層着実に安定させると共に、社団法人日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、外国映画通関連絡協議会、モーシオン・ピクチャー・アソシエーション(MPA)社団法人日本映像ソフト協会、日本国際映画著作権協会等関連諸組織との提携を一層密接にし、文字通り洋画界を代表する唯一の公的機関としての権威付と内的充実を計るよう努力する。

- (1) 外国映画事業、映画関係法規等の調査、研究並びに資料の収集および作成
- (2) 優秀な外国映画の保存及び公開
- (3) 「トーキョーシネマショー」の開催
- (4) 第46回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施
- (5) 国際協力に資する各種映画祭の開催及び協力
- (6) 輸入外国映画の品質、興行成績及び事故による損傷、滅失等の評価、鑑定又は証明
- (7) 「映画サービスデー」実施を始めとする都興連・全興連事業への協力
- (8) 輸入外国映画の国際取引に係る紛争解決の斡旋

- (9) 劇場用長編外国映画の著作権侵害に対する諸対策の件
「映画の盗撮の防止に関する法律」が8月30日施行するが、ひき続き「映画館に行こう！」実行委員会を核として盗撮を防止するための措置を講ずるよう努める。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

* 「映画館に行こう！」キャンペーン事業への参加

* 副音声付等特殊上映事業への取組み

* 年頭名刺交換会の開催

2012年に協会創立50周年をむかえるにあたり、創立50周年記念事業企画委員会が中心となり記念事業企画を検討していく。

平成18年度に外配協が行った主な事業は以下の通りである。

- (1) 外国映画事業、映画関係法規等の調査、研究並びに資料の収集および作成

平成18年度外国映画作品目録を平成19年1月に発行。続いて2月と3月に補足資料を発行して本資料を完成。平成18年度外画概況 国別、会社別を7月と1月に発行。

- (2) 優秀な外国映画の保存及び公開

* 東京国立近代美術館フィルムセンターへのフィルム寄贈

当協会会員会社から東京国立近代美術館フィルムセンターに永久貸与された作品は10本であった。会員各社の作品契約の諸条件の中で、海外契約相手のプロデューサーからの賛同を得て、日本（東京国立近代美術館フィルムセンター）にプリントを残す運動は、地道な活動ではあるが、重要な仕事であると認識して、各社が努力している。

* 「トーキョーシネマショー」の開催

11回目を迎えた「トーキョーシネマショー」は「GTFトーキョーシネマショー2006」として以下の通り開催された。

会場：内幸町イイノホール

会期：8月8日～8月14日

主催：社団法人外国映画輸入配給協会

共催：社団法人日本映画製作者連盟

全国興行生活衛生同業組合連合会

モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）

GTFグレートウキョウフェスティバル実行委員会

後援：経済産業省、財団法人日本映像国際振興協会

プログラム

2006年秋～2007年 ラインアップ・プレゼンテーション

8月8日（火）

ナビゲーター：襟川 クロ（映画パーソナリティ）

映画パーソナリティ襟川クロ氏の司会で、外配協、MPA、映連加盟配給会社28社の宣伝担当が、2006年秋以降に公開予定の新作映画ラインアップのプレゼンを行い会場は盛り上がった。

○スペシャルイベント

8月8日（火）午後3時30分～5時30分

・「築紫賞：ゴールドエンタイトル・アワード」授賞式

- 映画をより多くの人に、日本語をより豊かに -

ジャーナリスト筑紫哲也氏が、2005年7月から2006年6月までの1年間に公開された映画を対象に、「最も素晴らしいタイトル」をつけた作品として、内田けんじ監督「運命じゃない人」を表彰した。

・トークショー「ウルトラマン誕生40周年記念スペシャル」

- 1966年TVシリーズ放映からの時代とヒーロー像、そして子供達へのメッセージ -

ホスト：筑紫哲也（ジャーナリスト）

ゲスト：満田かずほ（「ウルトラマンランド」名誉会長）

鈴木 清（円谷プロ制作部チーフプロデューサー）

小中和哉（『ULTRAMAN』監督）

朱川湊人（作家）

黒部 進（俳優）

森次晃嗣（俳優）

団 時朗（俳優）

高峰圭二（俳優）

○試写会

8月9日(水)～8月14日(月)

8月9日～8月14日まで外配協・MPA・映連会員、加盟会社により上映された新作作品は15本であった。

試写会作品出品内訳

外配協	8社	9本
MPA	5社	5本
映連	1社(他3社は外配協からエントリー)	1本
合計		15本

各試写会作品名と試写会ならびにスペシャルイベント・予告篇入場者数

日付	作品名	入場者数
8/8(火)	ラインアップ・プレゼンテーション	612
	筑紫イベント	381
8/9(水)	ブラック・ダリア	696
	X-MENファイナルディジション	696
8/10(木)	ラフ	657
	キンキーブーツ	696
8/11(金)	ナチョ・リブレ 覆面の神様	621
	16ブロック	623
	ウィンター・ソング	696
8/12(土)	ハウス・オブ・D	668
	トンマッコルへようこそ	696
	Sad Movie	696
8/13(日)	ただ、君を愛している	696
	出口のない海	696
	僕の、世界の中心は、君だ。	691
8/14(月)	ファイナル・デッドコースター	668
	マッチポイント	679
合計		11,159

「GTFトーキョーシネマショー2006」パンフレットには、外配協、MPA、映連各社の2006年秋以降のラインアップ作品270本を揃えカラーで掲載。来場者に無料で配布し、公開を待つ映画作品の紹介に努めた。

* 第45回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施

社団法人外国映画輸入配給協会が昭和37年度(1962年)から通商産業省(現経済産業省)の後援を得て制定した「優秀外国映画輸入配給賞」も平成18年度で45回を迎えた。第45回同賞は平成18年4月1日から平成19年3月31日迄の1年間に作品的に優秀で、なおかつ新分野を開拓し、日本映画界の発展に大きく寄与するものと認められた外国映画を我が国に輸入公開した配給会社を表彰する為、11名(別項表示)の審査員により審査がおこなわれ、各賞が決定した。

概要は以下の通り

審査員： 品田 雄吉(審査委員長)、秋山 登(副委員長)

相原 斎、伊藤 道一、宇井 寿之、岡 政人、

関口 裕子、竹入 栄二郎、土屋 好生、富田 勲、藤井 真也

審査員竹入栄二郎氏は平成19年6月7日に逝去された。第2回審査会より大高宏雄氏が審査員に就任。

主 催：社団法人外国映画輸入配給協会

後 援：経済産業省

審査経過報告

第1回審査会

第1回審査会は2月7日に開かれた。品田審査委員長から、審査の基本方針について説明が行われ、外国映画輸入配給協会が作成した2006年度「外国映画作品目録」を資料に、審査対象会社87社(当協会会員会社23社、MPA加盟会社5社、その他59社)を一社ずつ配給した全作品を検討しつつ審議を行った結果、最終審査会には以下の8社が選ばれた。

エイベックス・エンタテインメント株式会社

「プルートで朝食を」「薬指の標本」「美しい人」「ルワンダの涙」「愛より強く」

有限会社ビターズ・エンド

「夜よ、こんにちは」「ダーウィンの悪夢」「恋人たちの失われた革命」

株式会社東北新社

「グッドナイト&グッドラック」「さよなら、僕らの夏」「敬愛なるベーターヴェン」「マリー・アントワネット」

ブエナ ビスタ インターナショナル ジャパン
「パイレーツ・オブ・カリビアン デッドマンズ・チェスト」「キンキーブーツ」

株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
「プロデューサーズ」「ダ・ヴィンチ・コード」「ココシリ」「レイヤー・ケーキ」「サムサッカー」「カポージェイ」「16ブロック」「007 カジノ・ロワイヤル」「イカとクジラ」「幸せのちから」

ユナイテッド・インターナショナル・ピクチャーズ・ファー・イースト
「インサイド・マン」「M:i:」
「ユナイテッド93」「マイアミ・バイス」
「40歳の童貞男」「ワールド・トレード・センター」「ナチョ・リブレ 覆面の神様」「不都合な真実」

ワーナー・ブラザーズ映画
「僕の大事なコレクション」「スーパーマン リターンズ」「イルマーレ」「父親たちの星条旗」「硫黄島からの手紙」「ディパーテッド」

有限会社スローラーナー
「太陽」

第2回審査会（最終審査会）

第2回審査会は3月7日に開かれた。第1回審査会以降に公開された作品ならびに3月末日迄の公開作品を追加記載した補足資料（追加会社12社）について審査を行った後、第1回の選考で残った各配給会社の審査会から推挙された各作品の興行成績を参考に、以下の審査結果が決定した。

経済産業大臣賞

ワーナー エンターテイメント ジャパン株式会社
ワーナー・ブラザーズ映画
「硫黄島からの手紙」「父親たちの星条旗」「ディパーテッド」「ハッピー フィート」

ワーナー・ブラザーズ映画は、日本の硫黄島での戦いで日本人が日本語で演じる映画をアメリカ人監督が撮るという未知の要素を孕んだアメリカ映画「硫黄島からの手紙」の公開にあたって、同じ監督の「父親たちの星条旗」公開

と連動させて、“硫黄島の戦い”のテーマを鮮明にする試みに果敢かつ周到に取り組む、その結果極めて質の高い2つの作品を540万人以上が観賞し、映画界のみならず文化的にも社会に大きな刺激を与えた。加えて、一流のハリウッド映画での、渡辺謙をはじめとする日本の俳優たちの活躍を支えた同社の健闘は高く評価された。同社の勢いは「ディパーテッド」と「ハッピー フィート」にも感じられ、本賞授賞の評価に繋がった。

特別賞

株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
「ダ・ヴィンチ・コード」「007 カジノ・ロワイヤル」「幸せのちから」「カポータ」「ココシリ」

ソニー・ピクチャーズ エンタテインメントは、大ベストセラー小説「ダ・ヴィンチ・コード」映画版の話題を社会的に盛り上げ映画観客拡大に大きく寄与し、「007 カジノ・ロワイヤル」、「幸せのちから」、「カポータ」、「ココシリ」と映画観客の多彩な嗜好に応える作品を丁寧に観客に届け、映画観客の掘り起こしに貢献した。

ユナイテッド・インターナショナル・ピクチャーズ・ファー・イースト
「ユナイテッド 93」「ワールド・トレード・センター」「不都合な真実」「ドリームガールズ」「M:i:」

UIPは、「ユナイテッド 93」、「ワールド・トレード・センター」、「不都合な真実」と社会性のある作品で映画に何が語れるかを社会に問い、「ドリームガールズ」と「M:i:」では、同社の伝統ある鮮やかな宣伝力で、映画の楽しさを求める多くの観客を映画館に誘った。

株式会社東北新社
「マリー・アントワネット」(東宝東和(株)共同配給)「グッドナイト&グッドラック」「敬愛なるベーターヴェン」

東北新社は公開時期の絶妙なタイミングと、女性あるいは音楽ファンを魅了する宣伝で「マリー・アントワネット」(東宝東和(株)共同配給)と「敬愛なるベーターヴェン」の興行に道を開き、映画ファンの幅を広げた。加えて「グッドナイト&グッドラック」の健闘は、同社の昨年度の活躍を光らせている。

奨励賞

有限会社スローラーナー

「太陽」

敗戦前後の昭和天皇を描くソクーロフ監督の「太陽」は、普段ミニシアターで映画を見たことのない多くの観客を劇場に呼びロングランへと繋げた。公開が難しいとされたこの作品でスローラーナーがミニシアターの新たな観客を掘り起こした功績は高く評価された。

有限会社ビターズ・エンド

「ダーウィンの悪夢」「夜よ、こんにちは」

ビターズ・エンドが外国映画輸入配給に寄せる意欲は毎年審査会で高く評価されてきた。昨年度同社が公開した「ダーウィンの悪夢」と「夜よ、こんにちは」にも、世界映画の中から日本の観客に届けたい作品を見出し、粘り強くその公開を実現させて観客の期待に応えていこうとする同社の意欲が強く感じられ高く評価された。

授賞式は平成19年4月18日に開催され、一般応募者270組540人、関係者50人、合計590人を招待し、ワーナー・ブラザース映画提供の「300<スリーハンドレッド>」の受賞記念特別試写会を行った。

(3) 適正な音量による予告篇上映の実施と検証

輸入配給された作品ならびに予告篇が、映画館で観客に満足される状態で上映されるべく、平成16年から活動をしている「予告篇音量適正化委員会」(社団法人日本映画産業団体連合会が中心となって運営)に協力し、引き続き映画館において「85Leq(m)以下」と決定した音量適正值による予告篇上映実施と検証を続け、外配協会員各社のこの問題への関心を高めた。

(4) 国際協力に資する各種映画祭の開催協力

1. 以下の映画祭の後援・協力を行い、各映画祭が成功裡に開催されるよう協力した。

2. 第19回東京国際映画祭運営に協力をし、上映作品のフィルム通関、翻訳、字幕製作に協力した。

平成18年度 外配協後援各種映画祭

映 画 祭	会 期	会 場
「ニューージーランド映画祭2006」	平成18年5月11日(木)から14日(日)迄	オリベホール(六本木)
「グレーター トウキョウ フェスティバル2006」	平成18年7月1日(土)から9月30(土)迄	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、各会場
「あいち国際女性映画祭2006」	平成18年9月6日(水)から10日(日)迄	愛知県女性総合センター
「第19回東京国際映画祭」	平成18年10月21日(土)から29日(日)迄	渋谷 Bunkamura、六本木ヒルズ他
「第5回京都映画祭」	平成18年10月24日(火)から19日(日)迄	MOVIX 京都、祇園会館、東映京都撮影所、東映太秦映画村他

「TIFFCOM2006 ~ アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット」	平成18年10月23日(月)から25日(水)迄	六本木ヒルズ 森タワー(40階49階)他
「大阪アジア映画祭2006」	平成18年11月1日(水)から30日(木)迄	リサイタルホール(仲之島)、KTV ホール「なんでもアリーナ」(扇町)、そごう心斎橋本店他
「第13回大阪ヨーロッパ映画祭」	平成18年11月3日(金)から29日(水)迄	大阪港・海遊館ホール、大阪国際交流センター他
「第11回神戸100年映画祭」	平成18年10月31日(火)か11月22日(月)迄	ピフレホール(新長田)、兵庫県立美術館、神戸新

			聞松方ホール、神戸アートビレッジセンター他
	「第19回さっぽろ映画祭」	平成18年11月9日(木)から12日(日)迄	共済ホール、サンピアザ劇場、イベントホール EDiT 他
	「東京国際シネシティ フェスティバル2006」	平成18年11月23日(木)から26日(日)迄	新宿ミラノ1、シネシティ広場
	「フランス映画祭2007」	平成19年3月15日(木)から18日(日)迄	東京 / TOHO シネマズ六本木ヒルズ、シネマメディアージュ、横浜 / TOHO シネマズららぽーと横浜、大阪 / TOHO シネマズなんば、TOHO シネマズ高槻

(5) 輸入外国映画の国際取引に係る紛争解決の斡旋

1. 当協会会員各社は作品契約に際して諸般の事情の許す限り情報交換を行い、買付に当たっての重複を避けると共に、過当競争を防止し、日本における輸入配給事業の健全な発展を計るよう努力した。
2. 劇場用長編外国映画のビデオカセット、DVD及びブロードバンドをはじめとする映像産業の多様化に伴う諸対策に関する件
インターネット上で劇場用長編映画ファイル共有・交換サイトに違法にアップロードされた作品を元に違法映像と音声ファイルをダウンロードし、このファイルを元にした大量の無断複製による海賊版DVDが露天商で売買されている著作権侵害は、日本の映画製作を衰退させるばかりでなく、日本の輸入配給事業の健全な発展を阻むものであり、外国映画の国際取引に大きな影響を与えかねない問題を孕んでいることから、社団法人日本映画産業団体連合会、社団法人日本映画製作者連盟、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)、全国興行生活衛生同業組合連合会、社団法人日本映像ソフト協会、日本国際映画著作権協会他と緊密な連絡をとり諸対策を検討した。
3. 「映画の盗撮の防止に関する法律」制定にむけて。

映画作品不正コピーの流通を阻止する為、日本の映画館で上映中の邦画・洋画の画像盗み撮り防止に関する法律制定にむけて、社団法人日本映画製作者連盟（映連）、全国興行生活衛生同業組合連合会（全興連）、モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）、社団法人外国映画輸入配給協会（外配協）は、不正商品対策協議会と連携して平成18年度はより活発な活動を展開した。

平成18年1月31日に、日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、外国映画輸入配給協会、MPA・アジア太平洋地域統括本部、日本映像ソフト協会との連名で発表した「映画館での盗み撮り行為に罰則を」の声明文につづいて、第19回東京国際映画祭会期中の平成18年10月26日に、声明文を発表した団体が一体となり映画業界をあげて「海賊版対策セミナー」を開催した。

プログラム

基調講演

「アメリカ映画 海賊対策の実際と問題点」

講師： M P A A 会長兼 C E O ダン・グリックマン

パネルディスカッション

「映画館での盗み撮り行為に罰則を」

モデレーター： 前田哲男（弁護士）

パネリスト： 岡田祐介（東映(株)代表取締役社長）

佐野哲章（株）ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
執行役員映画部門日本代表）

エイドリアン・ペコティック

（A F A C T 代表、オーストラリア弁護士）

レポート

「デジタルシネマのセキュリティ・著作権保護技術」

レポーター： 青山友紀 慶応義塾大学教授

シンポジウムに引き続き、関連5団体を中心とした映画業界は「映画の盗撮の防止に関する法律」制定の実現に取り組んだ。1月からは、「映画館に行こう！」実行委員会が母体となって、映画の盗撮を防止する措置を講ずべく検討を重ねた。

本件に関する社団法人外国映画輸入配給協会の基本的な方針は、政策委員会で審議のうえ定例理事会で決定され、外配協各作業部会で審議され実行され

ている。

* 「映画の盗撮の防止に関する法律」は5月23に参議院本会議で可決成立し、5月30日に公布、8月30日に施行となった。

「映画館に行こう！」実行委員会が核となって、法律施行を受けての広報活動ならびに劇場での取組みについて検討を重ねている。

(6) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

1. 「映画館に行こう！」実行委員会、キャンペーン事業への参加

映画人口の2億人拡大を実現し、映画産業と日本経済の発展に資する事を目的に、社団法人日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、社団法人外国映画輸入配給協会、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)の映画業界4団体が平成16年に発足させた「映画館に行こう！」実行委員会の平成18年度事業に積極的に参加した。

第一弾として、中高年の映画人口拡大を目的に、50代夫婦への生活提案をテーマにして展開したキャンペーンは、平成18年度に着実に成果をあげ、同時にシニアの映画愛好者を映画館に呼び戻し、この年代の映画ファンのさらなる拡大に寄与した。

同実行委員会が任命した映画大使筑紫哲也氏の発案で、実行委員会が創設した「筑紫賞：ゴールドエンタイトル・アワード」2度目の受賞式を「GTF2006トーキョーシネマショー」の中で行った。(同賞の内容は別添)

平成17年7月1日からは、若い世代の映画人口拡大を目標として、高校生に的を絞ったキャンペーンを開始し、平成18年度は2年目を迎えている。

外配協会員各社は、キャンペーンチラシへの作品広告掲出、各社作品新聞広告にキャンペーンロゴを入れる等の協力を行っている。

2. 宣伝デジタル委員会への参加

社団法人日本映画製作者連盟、社団法人外国映画輸入配給協会、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)の宣伝部が委員会を立上げ、平成18年度も「映画館に行こう！」キャンペーンの趣旨に沿ったデジタル部門のサポートを検討し、外配協ならびに会員各社は「映画館に行こう！」キャンペーンホームページに参加してキャンペーンの浸透に積極的に参加している。

3. 年頭名刺交換会の開催

モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）の協力を得て、日本の映画産業を支える配給、興行、宣伝、製作関係者722名に参加いただき、年頭にあたり外国映画輸入配給事業の健全な発達を図り我が国経済の発展と文化の向上に寄与することを目的として平成19年は、平成18年に引き続き1月5日（金）に「年頭名刺交換会」を開催した。

4. 各種映画賞運営に協力

第30回「日本アカデミー賞」、第61回「毎日映画コンクール」の運営に協力した。東京映画記者会主催の第49回「ブルーリボン賞」に後援者として協力した。

5. (社)映画産業団体連合会会員としての活動

社団法人映画産業団体連合会（映団連）の正会員として、当協会会長は理事として定時総会、定例理事会（9回）に出席し、事務局長はオブザーバーとして同席。映団連会員団体事務局長連絡会議に出席、映団連の会員として当協会の基盤の安定に努力した。映団連主催の第51回「映画の日」運営に協力した。

第51回「映画の日」永年勤続功労章受賞者（当協会推薦者）は以下の通り。

氏名	会社名	役職名
中山 義廣	日活(株)	撮影所事業所スタジオセンター主任技師
合 計		1 名

6. 外画宣伝部長会

当協会会員会社とモーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）加盟会社の合計24社の宣伝部長で構成される宣伝部長会（10回）を開き、直面する諸問題の検討、情報の交換等を行い、各社の宣伝業務が円滑、健全に遂行され、各社の輸入配給事業の活動が妨げられず、映画観客の増大に繋がる宣伝を各社が行える環境整備に努力をした。社団法人映画製作者連盟と協力して、2007年度映画ジャーナリスト・宣伝部合同年賀の会を1月9日（火）に開催し、映画関係ジャーナリストとの交流を深めた。

以上